



TITLE:

荒木講師通信

AUTHOR(S):

荒木, 千里

CITATION:

荒木, 千里. 荒木講師通信. 日本外科宝函 1937, 14(2): 634-634

ISSUE DATE:

1937-03-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/204805>

RIGHT:

荒 木 講 師 通 信

(1937年2月21日 Chicago 發)

…………前 略

『偶然に最初に行つたのが市俄古大學の Bailey の所で、こゝで圖らずも私は殆んど無理矢理に Bailey の門下生にされて仕舞ひました。非常に親切な人ですので親切にホダされて私も甘んじて Bailey の門に入ります。前にも一寸書いたと思ひますが Bailey は手術の下手で有名な人ですが、學者としては米國でピカーの存在ですから當分 Bailey の下に腰を据ゑて勉強するのも屹度得る所が多いと思ひます。私は2—3ヶ月臨牀的な見學をしたいと云つたのですが、¹6ヶ月居ろ、思ふ通り勉強さしてやる²との事ですので、それに従ひます。³「アルバイト」をやる氣はありませんから、その點の指導を頼むことはしないつもりですが、若し向ふからこういう事をやれと云はれたら斷るのも賴ですからやるつもりで居ます。この人は歐羅巴に最もよく知られてゐますので獨乙、佛蘭西、英國、西班牙、其他から米國に來る留學生は Cushing 引退後皆こゝへやつて來ます。現在もハンガリーから一人來てゐます。そこで Bailey 曰く「腦外科の勉強なら歐羅巴に行つても駄目だ、こゝに居て勉強した方がよい⁴」と。それで私はもう歐羅巴行きはやめます。別に見物に行く氣もありませんから。Cushing は市俄古では Oldberg の手術を見ろと云つたのですが當分これも止めて、専心 Bailey の下に勉強します。8月迄こゝに居て、それから Mayo Clinic で約1ヶ月半見學し10月末に歸朝する豫定であります。それで在留期間を6ヶ月延長しなければなりませんので』 後 略…………

荒 木 千 里

International House

1414 E. 59th str. Chicago, Ill.